

令和6年度 医療部会第3回研修会 報告

日時：令和7年3月11日（土）12：55～17：15

場所：愛知医科大学病院 立石プラザ アメニティ棟3階 および zoom によるライブ配信

参加者：78名（現地参加22名）

テーマ：がんの栄養管理

第1部：シンポジウム（120分）

講師： 山田 悠史 先生（名古屋市立大学病院 臨床栄養管理室 副室長）

陳 真規 先生（海南病院 診療協同部 栄養管理室 栄養管理係長）

中川 啓子 先生（在宅医療・介護運営委員会 名古屋地区ブロック長）

「入院前から術後ケア」「術後から退院までのケア・緩和ケア」「在宅ケア」のグループに分けて、症例を交えて管理栄養士の関わりをご紹介いただきました。

山田先生と陳先生からは、各病院内での取り組み

もご紹介いただき、中川先生からは少量でのエネルギーやたんぱく質の確保、介護負担を軽減するための食品や料理選びについてご提示いただきました。

他施設の取り組みを知ることで、自身の施設での取り組みとの比較や振り返り、良い刺激を受けられた方も多かったのではないかと思います。

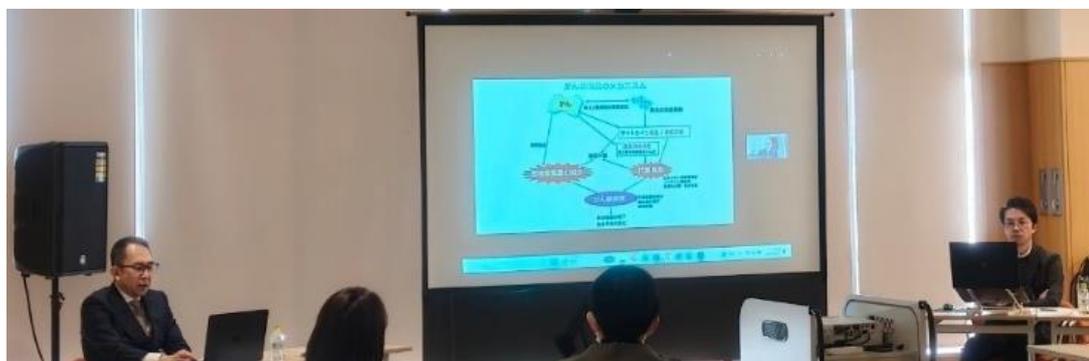
初期段階からの栄養管理の重要性、そして終末期になると「食がQOLを高めることばかりではない」ということも心に残りました。



第2部：基調講演（90分）

講師：森 直治 先生（愛知医科大学病院緩和ケアセンター 教授）





第2部の基調講演では、森先生からは、栄養スクリーニングやアセスメントに始まり、悪液質（カヘキシア）の段階ごとの栄養管理、ガイドラインや論文・研究データなどを交えて、ご講演いただきました。

日本人の2人に1人が生涯の間に『がん』と診断されるほどの身近な病気。その『がん』の栄養管理について学ぶことで、がんの栄養管理に限らず、栄養指導（栄養介入・栄養相談）の際に心がけるべき点を再認識することの出来た研修会でした。

報告者：医) 偕行会 海部共立クリニック 高橋 恵理香